

## 令和2年度 認定こども園カトリック白杵幼稚園 自己評価

### 幼稚園の目標

キリスト教精神に基づいて、愛と尊敬を持って幼児に接し、一人ひとりの子どもの個性を大切にしながら、人間を生かす愛に満ちた正しい人格を育てることに力を注ぎ、心豊かで実践力のある子どもの育成を目指す。

- ① 人を思いやる心を持ち、みんなと仲良く出来る子ども
- ② 強い心、丈夫な体の元気な子ども
- ③ 何でもやろうとする、「生きる力」「やる気」のある子ども
- ④ 目に見えない存在（神様）への賛美と感謝の心を持つ子ども

### 幼稚園部 自己評価の視点

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で援助・指導を振り返りました。  
☆しるし1個は低く☆5個は最上級です。参考文献は幼稚園教育指導要領です。

- (1) 健康な心と体  
☆の数は (4.4.4.4.4.4.4.4.3.)
- (2) 自立心  
☆の数は (4.3.3.3.3.4.3.4.3.3.)
- (3) 協同性  
☆の数は (5.2.5.3.3.4.4.4.4.4.)
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え  
☆の数は (5.3.3.3.3.4.3.3.4.3.)
- (5) 社会生活との関わり  
☆の数は (4.2.5.3.2.4.5.3.3.4.)
- (6) 思考力の芽生え  
☆の数は (3.2.3.3.4.3.4.3.3.2.)
- (7) 自然との関わり・生命尊重  
☆の数は (4.2.3.3.3.5.4.3.3.4.)
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
☆の数は (3.3.4.3.3.4.4.4.2.3.)
- (9) 言葉による伝え合い  
☆の数は (5.4.3.3.4.4.4.3.3.3.)
- (10) 豊かな感性と表現  
☆の数は (4.3.4.3.3.4.4.3.3.2.)

## 行事で工夫したいことは

- ・今年度、新型コロナウイルス感染症の関係で行事の見直しを必然的にする事となり、変更したことが大変良い内容になったので、今後も古い物にしばられず、最善の良い物を熟慮してみんなで話し合いを重ね、子ども達にとって良い行事に工夫していきたいと思います。
- ・“認定こども園＝働いている保護者が多い”という意識を持って、保護者の負担にならないような内容にしたい。今年度の運動会は当日の保護者の手伝いがなく、今までに比べると職員が動く機会が多かったが、保護者に渡す準備本作成や説明に費やす時間が無かったため準備でバタバタしてしまったという印象はなかった。
- ・今年度は新型コロナウイルス予防対策上から、聖劇を大きな舞台で出来ること、夕涼み会を夏祭りに変更し、職員と子どもですること、運動会の準備係を職員ですること等、保護者に参加してもらう行事も大切だとは思いますが、職員が出来る範囲は補いながら行事をしていくことも出来るということが分かった。もう一度、行事を見直し、保護者の協力をどこまでお願いするか考え直すのも大切だと思う。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で保護者が参加する事がほとんどなかったが、先生と子ども達だけで行った。夕涼み会(夏祭り)も形は変わってしまったが(子ども達は)十分に楽しめていた。これを機会に、本当に保護者が必要な行事なのか行事自体や内容を見直していく必要があると思った。
- ・行事ごとに話し合い、反省をし、その時に必要な子ども達のためにすべき事が出来るようにしていきたい。行事は親子との触れ合いの場、時間でもあるので大切にしたい。
- ・準備、片付けを出来るだけ簡素化できるように早目に取り組み、本当に必要かどうかよく考えていきたい。
- ・行事で「しないといけない事」になるのではなく、子ども達の成長の過程で何が必要なのか、どんな体験が出来たら良いかを考えたい。子どもたちが興味を持ち楽しんで出来るように導入から大切にしていきたい。
- ・特に低年齢クラスは、練習時間が短いですが、保護者の方にありのままの子ども達の姿を見せることが出来ていて良かったのかなと思いました。小道具、大道具作り等は出来るだけ早めに取り掛かることで自分たちの心の余裕も出来ると思うので頑張っていきたいと思います。今年は新型コロナウイルス感染症予防で行事等、色々な工夫が必要となりましたが例年とは違ったやり方で開催することが出来て良かったです。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症予防上制限されることが多かったが、その中でも子ども達の楽しんでいる姿や頑張っている姿が見られた。来年度は(今年度の)良かった点や反省点を踏まえながら準備の負担も少しでも軽減できたらと思う。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症流行があり様々な行事が例年のようにはいかず、規制した事等が多かったので、行事としては準備物が少なく、今までよりも負担が少なくなった面もあれば、保護者の方の手をあまり借りられない分、フリーの先生方の負担が多かったのではないかなと思った。子ども達の成長や活躍の場はこれからも大切に、省いて良い部分は職員の負担を減らすために改善できれば良いと思います。

「働き方改革」として実行したことは、実行したほうがよいと思う事柄はありますか。

- ・土曜日の預かり保育時間に勤務できる先生（非常勤で幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を有する）がいて下さると土曜日のシフトがスムーズになると思います。
- ・実行できたことはほとんどないと感じている。自分の中で『今日はここまで』と区切りをつけて仕事をしなければいけないと思う。また、効率良く仕事をするために年度初めに、おおまかな“一年間のスケジュール”のような物を作っておくと良いのではないかと思う。
- ・全体的に 2.3 号が増えてきて、土曜日のひかり組（預かり保育）も利用する家庭が多い為、職員の土曜日出勤が多かったため、代休をとれるように心がけたが足りない所もあった。以前より、シフト通りに出勤、退勤ができるようになったが、まだ、上手くいかない所もあるので、事前準備等を計画的にして負担がないようにしていきたい。
- ・月に一度、土曜日を休園日（休業日）にした事で、先生達が無理なく休みを取ることが出来た。勤務体制も安定しており、時間通りにいかない事もあるが、何もない時は定時に帰っている。行事が例年通りではなかったため、職員の負担も軽くなったように感じた。
- ・出来るだけ定時通り帰るように心掛け、準備等も早めに取りかかった。職員（特に担任）の負担を軽減する案も色々と実践し、やりやすかった面が多かったが、その反面、主任の仕事量、負担が大きい事を不安に思った。
- ・シフトを守って仕事出来るよう互いに声を掛け合いながら、早く帰る習慣を身につける。
- ・行事前等は難しかったが、1 学期の方等はシフト通り帰れる事もあった。長期休み中の先生たちの役割分担が出来たため負担が少なくなった。その反面、クラスの事を準備する時間は減った。
- ・毎日、帰る時間が一定してきたので、これからも続けていけたら良いと思います。
- ・毎日退勤時にシフトの時間を書くことによってシフト通りに退勤することを意識して取り組むようになった。
- ・仕事が終わり次第帰るように心掛けていましたが、なかなかシフト通りにはいかず遅くなる事が多かったため、シフトを守るために前もって準備や仕事を済ませるようにしなければいけないと思います。

総合的な振り返りの結果

☆の数は (4.3.4.3.3.4.4.3.3.3.)

令和 3 年度、子どもたちのために行いたい事は

- ・各年齢（学年）別に、週 1 回ずつ、（仮称ですが）「ひつじのお祈り」（20 分から 30 分程度）を実施したい。聖歌を意味とともに覚えたり、絵本を通してその内容を深めたり、カトリック幼稚園ならではの行事、お祝い日等について子ども達とそのクラスの先生と一緒に、薬師寺芳子先生と一緒に組みたい。
- ・子ども達が安心して安定した環境の中で過ごせるようにしたい。（年度途中で職員がクラスを入れ替わったりしたため）
- ・一つ一つの行事の目的をしっかりと意識して取り組むことはもちろん、日常生活の中での話の聞き方や言葉使い、態度等人間性として大切なことをしっかりと伝えていきたいと思う。

- ・まだまだ新型コロナウイルス感染症予防の観点から制限される事も多いと思うが、その中で工夫をし、伸び伸びと過ごせる環境を整えたい。できれば、もっと図書館や遊具のある公園に気軽に行けるようにしたい。
- ・子ども達が自分で考え、自信を持って行動出来るように導きたい。大人が手を出し（援助）すぎず、子どものやる気を引き出す関わりを心掛け、保護者と思いを共有しながら子どもの成長を見守っていききたい。
- ・今年度、地域の方との交流をする機会を通して、子ども達も様々な体験が出来たので、もっと積極的に図書館を利用し、たくさんの体験が出来る事を保育の中に取り入れて行きたい。
- ・子ども達自らの“やりたい”“やってみたい”という挑戦する気持ちを大切にしながら保育を行っていったら良いと思っています。
- ・日々の関わりを大切に、余裕をもって子ども一人ひとりと丁寧に接することを心がけていきたい。
- ・遊びの中で子ども達が自分で考え、様々な発想が生まれるよう色々な素材や道具を用意して日常の中で数や文字等にも興味を持てるようにしたいです。またルールのある遊びを取り入れ、友達と協力する喜びや楽しさ、ルールを守る事を一緒に楽しみながら行きたいです。

